

今回の特集では、彦根市総合計画の基本構想に基づき、各政策の主な新規・主要事業をお知らせします。なお、令和6年度の一般会計の予算総額は464億3,400万円となり、前年度と比べて3.1%の減少となりました。

☎ 財政課 ☎ 30-6107 FAX 22-1398

持続可能なまちを目指して

彦根の現状

今年度は公債費、つまり借金の返済が本格的に始まります。いわゆる財政の弾力性が全くなく、令和6年度予算では「やりたいことがほとんどできない」というのが正直なところ。しかし徹底的に無駄を省き、自主財源を確保することで、令和10年度頃に収支のバランスが取れていると出口が見えてきます。

住みやすいまちづくりに妥協はしない

厳しい財政状況ではありますが、特に子育て支援に関わる施策、これは譲れません。子育て支援こそ、最高の福祉政策です。子育てがしやすいまちづくりを進めることは、生産人口を増やし、税収を増加させます。それが結果として高齢福祉施策にもつながるのです。今後も子育て世代を応援する施策は重点的に取り組んでまいります。



彦根市長 わだ ひろあき 和田 裕行

彦根の資産を活かし、民間活用を

彦根市の財政を復活させるカギとなる「自主財源」を確保していく中で、重要になるのが民間活用です。そしてその前提にあるのが、彦根にあるポテンシャルをどう活用するか、ここがポイントです。

今進めている「映画のまち・彦根」もポテンシャルの活用です。彦根城という本物があること、琵琶湖や山などの自然、古い建物が残っていること、東京や大阪からのアクセスの良さ、このような地の利がポテンシャルです。

ひこにゃんにも大きなポテンシャルがありますので、今年度はふるさと納税への活用などに加え、絵本の発売やコミック、アニメ、さらにはゲームへの登場など大きく活躍の場を広げます。これらは株式会社もへろんスタジオが中心に進めておられ、同社とひこにゃんの相乗効果、民間活用によって彦根市が盛り上がることを期待しています。

また、Jリーグの誘致は究極の民間活用だと思っています。彦根市とホームタウン協定を結ぶレイラック滋賀FCがJ3に昇格すれば、約10億円の経済効果があるとも言われています。これは地域振興だけでなく、子どもにも夢を与える事業です。今後も全力で応援してまいります。

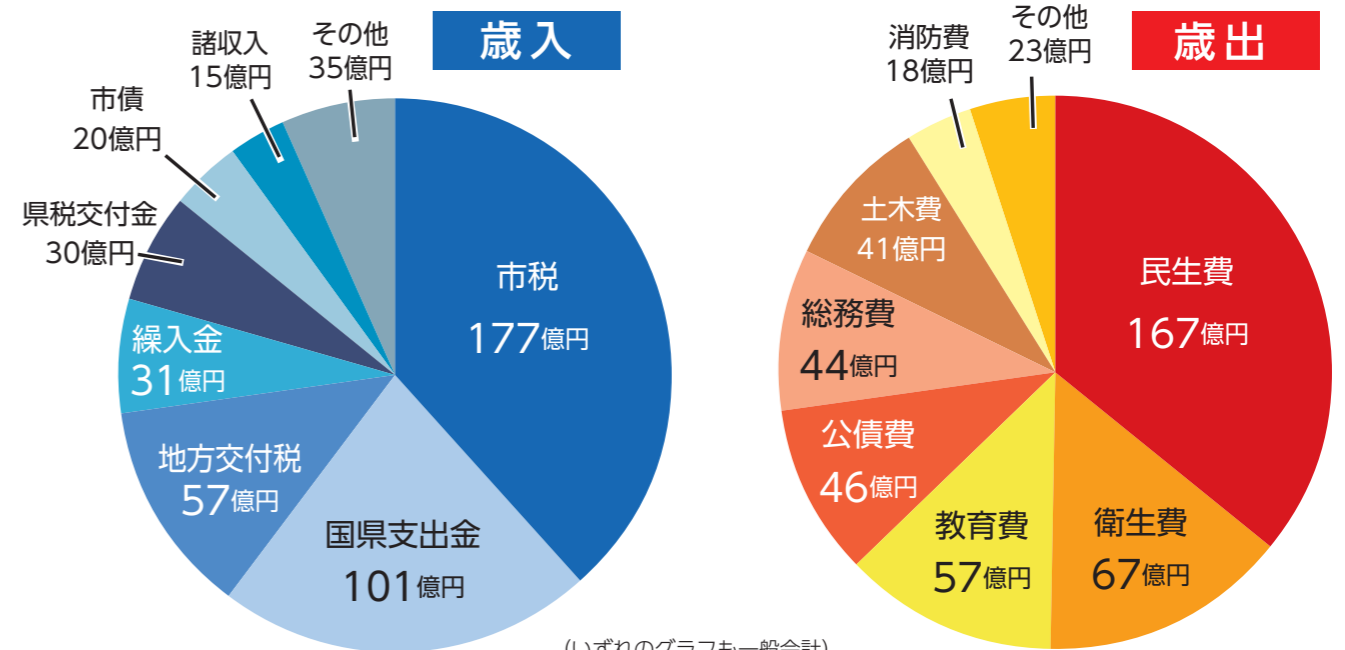
これからの彦根

厳しい財政状況が続きますが、彦根はポテンシャルのある町です。これを生かし、ブランド力を上げることで必ず復活します。これからも彦根に住み続けたい、そして移り住みたいと思うような、持続可能なまちを皆様と一緒に作っていきたくと思っています。

持続可能な「シン・彦根へ」

予算の内訳

一般会計 464億3,400万円



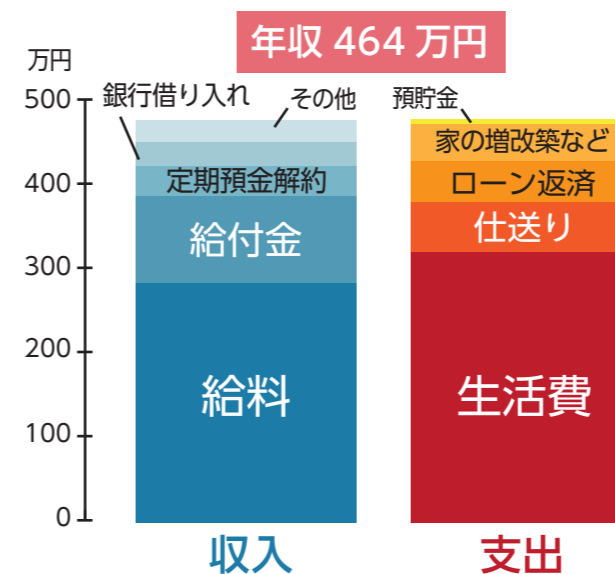
(いずれのグラフも一般会計) (グラフの各項目の数値は、1億円未満で四捨五入しているため、合計の数値とは一致しておりません)

<用語の解説>

民生費 / 福祉や医療の充実 衛生費 / 環境・衛生の向上 教育費 / 教育・文化の振興 公債費 / 市債の返済 総務費 / 市役所の運営 土木費 / 道路や橋、公園の整備 消防費 / 消防の整備 その他 / 産業振興ほか

彦根市の予算を家計に例えると・・・?

※一般会計464億3,400万円を1万分の1に換算



収入		
		金額 (万円)
給料	市税、交付税など	285
給付金	国・県支出金	100
定期預金解約	繰入金	31
銀行借り入れ	市債	19
その他	財産収入など	29
		合計 464

支出		
		金額 (万円)
生活費	人件費・物件費・扶助費など	327
仕送り	繰入金	60
ローンの返済	公債費	47
家の増改築など	投資的経費	25
預貯金	積立金	5
		合計 464